



2022年雨期作が継続中!

成果 1: 栽培技術



< ブルトでの除草ワークショップ >

1. Farmers Field School (FFS)雨期作の進捗

3月には、第3回目(除草・追肥)、第4回目(病害虫対策)、そして第5回目(自家採取種子品質管理)のFFSワークショップを実施した。マリアナI灌漑スキームでは、計7回のワークショップを行い、計72名のFFS参加農家や7名の普及員が参加した。ブルト灌漑スキームでは、計8回のワークショップを行い、計83名のFFS参加農家や9名の普及員が参加した。FFS参加農家の出席率は高く推移している。

2. 雨期作の進捗

マリアナI灌漑スキームの大半の農家およびブルト灌漑スキームの中流地区の農家の圃場のイネが、出穂・開花の時期を迎えている。この時期の病害虫対策としては、カメムシによる被害が最大の課題となるが、プロジェクトが推奨している総合的病害虫管理(IPM: Integrated Pest Management)の実践により、今年はカメムシの被害を抑えられている。

3. 東京大学農学院との直播栽培に関する連携調査

東京大学農学院との協働で実施されている湛水直播栽培の圃場では、周辺の慣行栽培の圃場よりも生育具合が良く、高収量が見込まれる。

成果 2: 灌漑管理



< ゲートキーパーへのOJT >

1. 水利利用組合(WUA)の試行的総代会の開催

ブルト灌漑スキームにおいて、WUA総代会が試行的ではあるが3月8日に実施された。この総代会でWUA組合長から、WUA年間活動計画、水利組合定款の細則、灌漑管理マニュアルの3点の議題が提出され、総代会の出席者から基本的な合意を得た。

2. 灌漑管理マニュアルの改訂

マリアナI灌漑スキームにおいてWUA、農業水産省(MAF)ボボナロ県局長、3村長を含む主要な関係者より灌漑管理マニュアルの内容につき了解を得られた。これにより、同マニュアルは、マリアナIおよびブルト灌漑スキームの両灌漑スキームの主要関係者により了承され、最終版が作成された。マリアナIスキームでは、3月21日には灌漑管理マニュアルに基づき、タスクグループメンバーとボボナロ県灌漑職員がゲートキーパーに対して、主要ゲート開閉の記録方法、二次水路(幹線水路)の流量計測のOn the Job Training (OJT)が実施された。また、3月23日には、同灌漑職員から支線水路長、ゲートキーパー、およびWUA運営委員に対して、灌漑管理マニュアル、特に輪番灌漑について説明し、関係者間で輪番灌漑の議論が深まった。

3. マリアナI灌漑スキームでの水利費徴収

この2月に徴収活動が再開されてから、支線水路長による水利費徴収が継続されており、3月末日時点で約16%が徴収済みとなった。

成果 3: 物流と販売 (民間)

1. チャクブ農家組合への指導

チャクブ農家組合の資機材、買取りした籾の在庫量、メンバーシッププログラム用の化学肥料の残量の一斉棚卸を行った。加えて、メンバーシッププログラム用に、チャクブ農家組合がこれまでに受領し、メンバーシッププログラム農家に配布した化学肥料の量も確認した。チャクブ農家組合の倉庫管理では、5S(整理、整頓、清掃、しつけ、清潔)があまり徹底されていなかったが、プロジェクト専門家の指導やリマインドにより、大分改善された。また、National Logistic Center (NLC)の新しいコメ買取りシステムに基づき、NLCに精米を販売する方法を話し合い、NLCとの売買契約に必要な登録・事務手続きをプロジェクトが支援することを確認した。

成果 4: 買取と配布 (政府)



< NLC新コメ買取り説明会 >

1. NLCによる買取り説明会

NLCは、2022年の新たなコメ買取りシステムとして、精米(白米)のみを\$1.25/kgにて、NLCのティバル(リキサ県)、パウカウ、ナタルボラ(マナツト県)の3倉庫のみで買い取ることを説明した。説明会に出席していた農家からは、以前のように籾による買取り、かつ、マリアナからティバル倉庫への運搬は遠く困難なためNLCのマリアナ倉庫での買取りに関し要望が出されたが、NLCは、新コメ買取りシステムは既に決定された内容として、その要望は受け入れられないと返答した。

2. マリアナI灌漑スキームでの精米所調査

上述のように、NLCの新たなコメ買取りシステムにより、農家による周辺の精米所への籾の持ち込み、精米の依頼が増加することが予測されることから、マリアナI灌漑スキーム内の精米所の位置、数、精米機の能力などを調査した。